

( 報告書様式 C )

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	愛 知 県
-------	-------

・ 学校の概要 ( 平成 15 年 4 月現在 )

津島市立暁中学校							
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	3	3	1	10	21	
生徒数	117	117	117	2	353		

・ 実践研究の概要

1 . 研究主題

確かな学力の向上の実現をめざして  
生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実

2 . 研究内容与方法

(1) 実践学年・教科

1 年生・2 年生・3 年生・数学 ( 系統性が強く、生徒の理解度に差が出やすい教科、基本をきちんと身につけさせたい学年 )

(2) 年次ごとの計画

平成  
14  
年  
度

テーマ

生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じた少人数授業のあり方の追究

研究の見通し ( 仮説 )

生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じたきめ細かい指導を工夫することにより、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせていくことができると思う。

研究内容・方法

少人数授業の方法

小単元 ( 章 ) の終わりの問題練習の時間を利用して、習熟度別に 1 クラスを 3 つのコースに分け、3 名の教師がそれぞれのコースを担当して指導する。

コースは、生徒が理解や習熟の程度により自分で選択する。

3 つのコース

基本・定着・発展の 3 コース。

・「基本」は、最も基本的と思われる問題。

・「定着」は、「基本」よりもやや複雑になってはいるが、学習内容として身に付けるべき問題。

・「発展」は、応用問題や発展的な問題。

生徒は、始めは「基本」か「定着」のいずれかのコースを選択する。

基本コースを選択した生徒は、できるようになったら定着コースへ移る。定着コースを選択した生徒は、できるようになったら発展コースへ移る。

教師は、発展コースに移る生徒ができるまでは、基本コースへ2人、定着コースへ1人が指導にあたる。発展コースに移る生徒が出てきたら、基本コースから教師が1人移って指導する。

平成  
15  
年  
度

#### テーマ

生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じた教材の開発と少人数授業の追究

#### 研究の見通し（仮説）仮説

章末の演習の時間だけでなく、普段の一斉授業においても生徒一人一人が習熟度別に取り組めるような練習プリントの作成や、コース別の少人数指導の授業に取り組むことにより、単元を通して生徒一人一人の実態に応じた指導ができると考える。

#### 研究内容・方法

一斉授業の問題練習の時間においては、生徒の理解や習熟の程度に応じた学習ができるように、教科書の練習問題を中心に習熟度によって振り返ったり発展していったりすることができるプリントを作成し、指導していく。

単元の章末問題の時間だけでなく、普段の授業においても少人数指導について考え、基本コースと発展コースを生徒に選択させ、1クラスを2教室に分けて指導していく。

平成  
16  
年  
度

#### テーマ

生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じた少人数授業における評価の生かし方の追究

#### 研究の見通し（仮説）仮説

少人数指導における指導計画の作成と実践を積み重ね、評価を指導に生かしていくことにより、生徒一人一人が学習内容をより確実に習得していくことができると考える。

#### 研究内容・方法

少人数指導に適した単元・領域の検討と指導計画の作成をしていく。

少人数学級での指導で、評価をどう指導に生かしていくかを実践を通して探っていく。

### (3) 研究推進体制

現職教育（学力向上フロンティア）委員会

（メンバー…校長、教頭、教務主任、校務主任、学年主任、該当教科部会）

### 平成15年度の成果及び課題

#### 1. 研究の成果

- ・ 普段の授業での自作プリントについては、下位の生徒は、練習問題を解決できないときに、例題がプリントに書いてあることによって、それを参考にしてわからないところを理解しようと取り組んだり、質問をしたり、意欲的に学習していた。上位の生徒は、多くの問題や応用問題に取り組むことができる。また、中位の生徒でも練習問題が解けると、進んで応用問題に取り組んでいた。このプリントを利用することによって習熟度に応じた学習ができたと思われる。

- ・ 習熟度に応じたコース別の授業では、約90%の生徒が、「自分にあった問題ができた」、「質問しやすいし分かりやすい」、「自分の弱点が克服できた」、「分からないところもきちんと聞くことができた」、「もっと数学をやりたい」、「こういう授業をもっとやってほしい」といった内容を感想文に書いており、問題が解けるようになった喜びや、次の授業への意欲の高まりなど、多くの生徒がもつことができたと考える。
- ・ どの授業においても70%以上の生徒が「できなかった問題ができるようになった」と答えており、少人数授業が生徒一人一人の学力の向上という点で効果があったと考える。

## 2. 今後の課題

- ・ 通常の授業でプリントを使っていくとき、次の学習課題につながるような発展問題の検討と作成をしていきたい。
- ・ 少人数指導に適した単元・領域の検討と、指導計画の作成をしていきたい。
- ・ 基本コースを選んだ生徒で、十分な成果を得られていないと感じている生徒に対する個別指導の方法を考えていきたい。

## ・ 学力把握のための学校の取組について

定期テストの実施（年5回）

## ・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 海部・津島地区の現職教育研究集会（数学分科会）において発表し、他校の先生方に実践報告し、意見交換をした。  
（平成15年10月17日、佐屋町立永和小学校、テーマ「確かな学力の向上の実現をめざして 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実」、海部津島地区中学校数学科教諭対象）
- ・ 3月初旬に、海部・津島地区の全小中学校に本校の研究のまとめの冊子を配布する予定である。
- ・ 現在HP作成中であり、フロンティアスクールとしての取組についても掲載する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校             14年度からの継続校
- 【学校規模】                    3学級以下                                  4～6学級  
                                        7～9学級                                   10～12学級  
                                        13～15学級                                16学級以上
- 【指導体制】                     少人数指導                                   T・Tによる指導  
                                        その他
- 【研究教科】                    国語                                  社会                                   数学                                  理科  
                                        外国語                                音楽                                  美術                                  技術・家庭  
                                        保健体育                                その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】             有    無